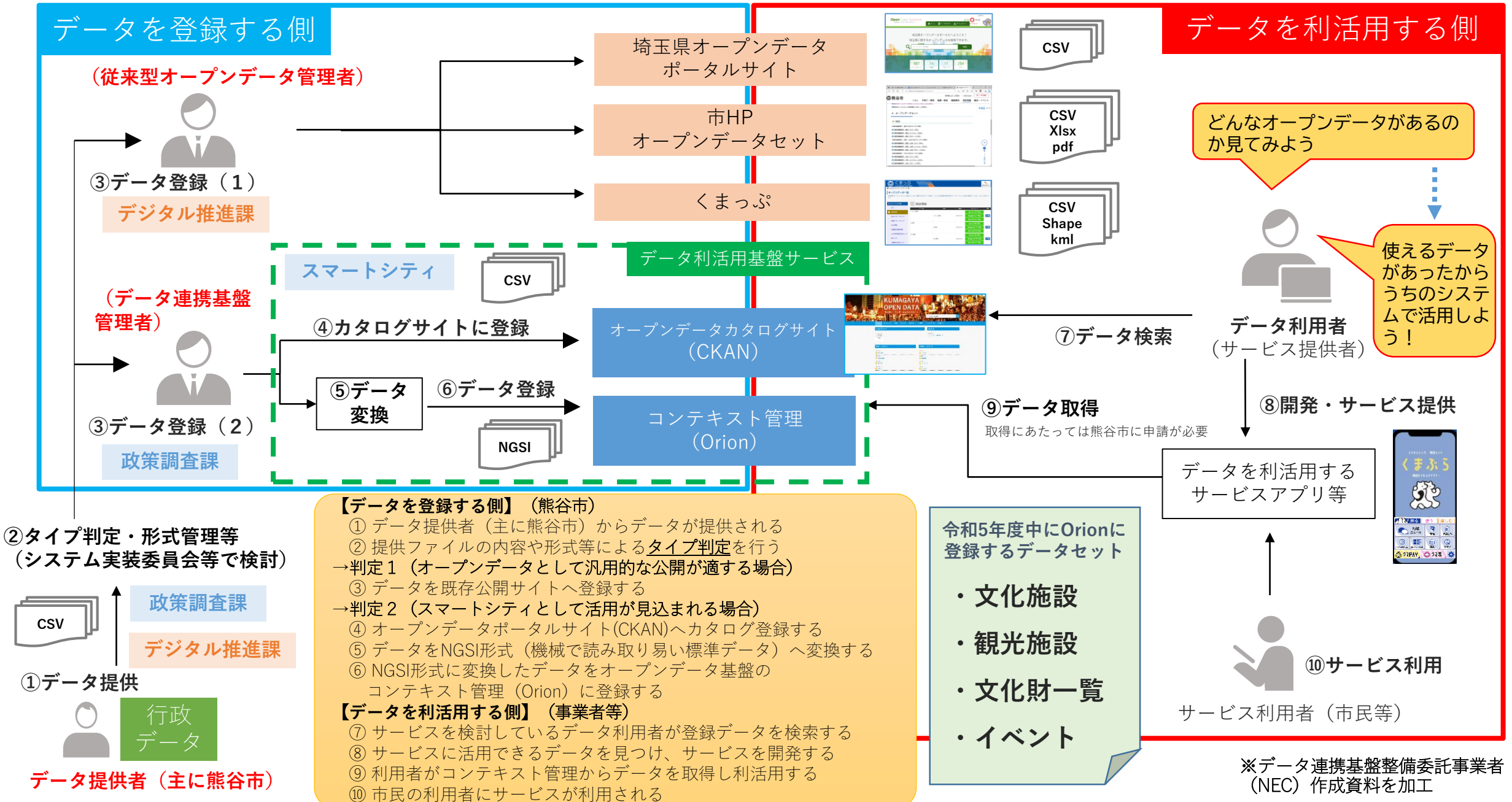


オープンデータ基盤を活用したデータ利活用の流れ



- 【データに登録する側】 (熊谷市)**
- ① データ提供者 (主に熊谷市) からデータが提供される
 - ② 提供ファイルの内容や形式等によるタイプ判定を行う
→判定1 (オープンデータとして汎用的な公開が適する場合)
 - ③ データを既存公開サイトへ登録する
→判定2 (スマートシティとして活用が見込まれる場合)
 - ④ オープンデータポータルサイト(CKAN)へカタログ登録する
 - ⑤ データをNGSI形式 (機械で読み取り易い標準データ) へ変換する
 - ⑥ NGSI形式に変換したデータをオープンデータ基盤のコンテキスト管理 (Orion) に登録する
- 【データを利用する側】 (事業者等)**
- ⑦ サービスを検討しているデータ利用者が登録データを検索する
 - ⑧ サービスに活用できるデータを見つけ、サービスを開発する
 - ⑨ 利用者がコンテキスト管理からデータを取得し利活用する
 - ⑩ 市民の利用者にサービスが利用される